東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 28 年２月８日　第５巻（第９・第 10　合併号）

発行：東京都新宿区住吉町 8–2０ 四谷ヂンゴビル2F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

１．　バトン寄稿 － Ｐａｒｔ７
２．　災害ソーシャルワーク研修報告
３．　活動報告
４．　他団体紹介
５．　災害支援チームからのお知らせ
６．　災害支援ニュース発行のお知らせ
７．　あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」　発売中！！
「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」　発売中！！
「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」　発売中！！

詳細は“4．災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1．バトン寄稿 － Ｐａｒｔ７

～～～　～～～　～～～

当協会の東日本大震災での支援活動は、５ 年目を迎えました。それぞれの時期に当協会の会員であった方々が責任者や担当として、現地にて協力員と共に支援のバトンを紡いでくれました。

～～～　～～～　～～～

今回は７人目の岡村が牡鹿半島で迎えた年末年始と復興の今を報告してくれました。

日本医療社会福祉協会　災害支援チーム
石巻事務所職員
岡村　翠
（2014年４月１日から　現職）

2015 年の年越し、2016 年の元旦を石巻で迎えることにし、同じく外部支援団体である一般社団法人キャンナス東北が運営している「おらほの家」で牡鹿半島の住民と過ごした。

おらほの家では、仮設に住む住民を迎えて年越しを共に過ごしている。今年の参加者は住民６名、スタッフ５名、ボランティア４名、他団体所属２名の計 17 名だった。

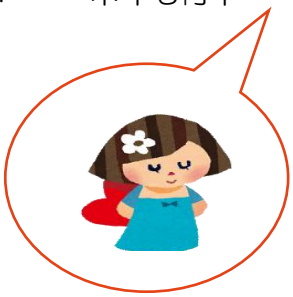
男性の住民さんが「船のコックだった」と言い、御馳走を作ってくれていた。浜の御馳走は牡蠣フライ、松前づけ、カレイの煮つけ、ワカメの和え物など海の幸が中心だ。女性の住民さんたちは、畳の部屋で紅白歌合戦を見、御馳走を食べ、お酒を飲みつつ話をする。浜言葉が飛び交い、穏やかな時間が過ぎていく。紅白歌合戦も終わり、テレビから流れてくる除夜の鐘を聞き、片付けをして雑魚寝をする準備。心配するスタッフに、一人の住民さんが、「震災以降、雑魚寝には慣れているから大丈夫。」というと、「そうそう、あのときは…。」とおしゃべりが続く。この集まりに参加した人は、仮設で高齢独居の方が多かった。

2015 年度は復興公営住宅が 1522 戸建設され、順次入居していく。現地での復興公営住宅入居支援は 2014 年７月から始まり、2015 年 12 月までにのべ 658 件を数える事ができた。旧市街地区以外（牡鹿・雄勝・河北・北上）の仮設からの入居は今年から本格化する。震災で住民の高齢化が一気に進んだ半島部にとって、住民も支援者も引越しの負担は大きい。気心知れた外部支援者の存在がしばらくは拠り所となる。しかし、ボランティア団体の撤退や復興予算の削減などから、当協会をも含めて、どのように支援を継続していけるのかは次年度にならないと分らない。ボランティア支援がいつまでも受けられるわけではないことを住民も理解し、それでも支援者に「来年も残るの？」と尋ねずにはいられない。

初日の出をキャンナスのスタッフと眺めつつ、新年度について考えたとき、昨年と同様に怒涛の

日々が待っているが、現地で精力的な活動を続けられるのは、サポートチームを始め、災害支援チームメンバー、事務所スタッフ、協会員のおかげだなと思った。多くの方々に支えていただいていることに感謝しつつ、「今年も一年頑張ろう」と誓った元旦だった。

本年も何卒　よろしくお願いいたします。



2．災害ソーシャルワーク研修報告

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

2015 年度 災害ソーシャルワーク研修を終えて

研修日程　：　2015/12/12　～　12/13

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

国立病院機構 高崎総合医療センター（群馬県）
地域医療支援・連携センター
篠原 純史

2015 年度 ソーシャルワーク スキルアップ研修「災害ソーシャルワーク研修」が、2015 年 12 月 12 日(土)～13 日(日)の 2 日間、KFC Rooms（東京都墨田区）にて開催され、北は岩手県から南は鹿児島県までの 38 名の方に参加いただきました。

これまで災害ソーシャルワークは、阪神淡路大震災や新潟中越地震の経験を踏まえても、卒前卒後教育において十分に行われてきませんでした。そのような中でも、公益社団法人 日本医療社会福祉協会では東日本大震災発災以降現在も宮城県石巻市において支援活動を継続しています。本研修では、災害医療の今についての知識を得、災害ソーシャルワークの概念の整理を行うとともに、実践活動から導かれた支援者間の連携や災害時のソーシャルワーク記録のあり方について学ぶことを目的としています。本研修は昨年度より開催され、昨年度は「避難所」における災害ソーシャルワークを中心とした研修内容でした。しかし、我が国では地震や津波だけでなく台風などによる局所災害も頻発しており、自院が被災することも十分に考えられます。そこで今年度の研修では、以下のプログラムにて「避難所」での災害ソーシャルワークに限局せず、医療機関で働くソーシャルワーカーとして平時に何を備えるか、いざという時にどのように支援を求めるかについても学びを深め

ました。

特に今年度は、国立病院機構災害医療センターの小早川義貴先生から「災害医療の今そして今後」と題して、災害医療の現状と課題や、平成 27 年９月関東・東北豪雨による災害に対する DMAT 活動を中心にご講義いただきました。

本研修終了後のアンケートでは「日頃の業務をきちんと行うことが災害ソーシャルワークにつながる」「普段の業務がしっかりできて有事のときに役に立てる」「災害時に限らず日々の業務にも必要なことを学んだ」「日常業務の大切さを改めて認識した」「日常のソーシャルワークの重要性をまず痛感した」「災害ソーシャルワークが日頃の業務とかけ離れているものと思っていたが、研修を受け身近な業務とつながっているものだとわかった」などの感想をいただき、本研修が受講生にとって、災害ソーシャルワークの学びを深めるとともに、日々のソーシャルワーク実践を振り返る機会となり、いかに「平時のソーシャルワーク実践」が災害有事において活かされ、不可欠なものかを感じていただけたのかと思います。

≪災害ソーシャルワーク研修　プログラム≫

○12 月 12 日（土）

オリエンテーション	日本医療社会福祉協会 災害支援チーム
講義１　災害ソーシャルワーク：医療ソーシャルワーカーの活動	文京学院大学 笹岡　眞弓　氏
講義２　災害ソーシャルワークに必要な知識（法制度）	国立病院機構高崎総合医療センター 篠原　純史　氏
講義３　チームを組む外部支援者の理解と連携構築	国立成育医療研究センター病院 佐藤　杏　氏
演習１　避難所における多職種カンファレンス	
講義４　災害支援者が受ける影響	埼玉県立大学 梅崎　薫　氏

○12 月 13 日（日）

演習２　緊急時の連携記録・伝達・サマリー	WITH 医療福祉実践研究所 佐原　まち子　氏
講義５　平時から考える災害ソーシャルワーク	公益財団法人ときわ会常磐病院 鈴木　幸一　氏 国立病院機構高崎総合医療センター 篠原　純史　氏
演習３　平時から考える災害ソーシャルワーク（グループワーク）	初台リハビリテーション病院 東　妙香　氏
講義６　災害医療の今そして今後	国立病院機構災害医療センター 医師　小早川　義貴　氏
まとめ	国立成育医療研究センター病院 佐藤　杏　氏

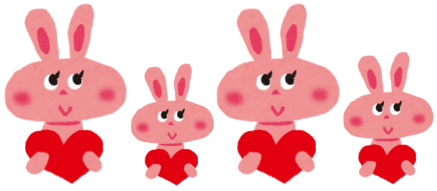
3. 活動報告

石巻ロイヤル病院（宮城県）
春山　瑞生
2015/11/17

今回の「男の遊ぼう会」の活動内容は、女川駅に併設された温泉施設「ゆぽっぽ」に石巻線・仙石線で行きお風呂に入ろうというものでした。変わりゆく石巻の景色を車窓から眺めながら、震災前後の話や地域の話などでまるで修学旅行のような賑やかさでした。お風呂では体調面が心配なメンバーさんに注意を払いながらの活動となり、立ち上がる時に後ろへ転倒することを防ぐため「背中流します？」とききました。すると思いの他とても喜んでいただき、「最初から全員の背中を流せばよかったかなあ」と思いつつお風呂を後にしました。入浴後には地元のお弁当屋さん「ワタママ食堂」のお弁当をじっくり味わいながら、帰りの汽車の時間近くまで次回の活動について話が弾みました。

活動を重ねるごとに、グループ内の個々の役割やメンバー同士の相互作用を垣間見ることが出来ます。メンバーさん達の個々の身体状況・心理状況も変化しています。そして私たち協力員も含めた環境も刻々と変化しています。石巻という環境変化が伴う地域でどのようなグループに変化していくのか、今後も協力員としてお手伝いをしながら見続けていきたいです。

環境が少しずつ変化する中で、メンバーさん達の状況も刻々と変化をしています。月一回ですが、協力員としてその方々とかかわることはとても意義のある事だと思います。ぜひ足を運んでみてはどうでしょうか。



4. 他団体紹介

特定非営利活動法人　移動支援　Rera

2011 年 4 月より、東日本大震災による津波の被害が特に甚大だった宮城県石巻地区を中心に、ご自身での移動が困難な住民の方を病院などへ送り届ける送迎ボランティアを行っておられます。

活動目的

2011 年 4 月より、東日本大震災による津波の被害が特に甚大だった宮城県石巻地区を中心に、ご自身での移動が困難な住民の方を病院などへ送り届ける送迎ボランティアを行っておられます。

対象者

・障害や高齢、体調不良などの理由で、お一人で移動するのが困難な方
・交通の不便な場所にお住まいで、公共交通機関の利用が難しい方
※車椅子・ストレッチャー対応の福祉車両も用意されています
リンク

http://www.npo-rera.org/

石巻市ではマイカーでの移動が主流となっています。震災で車を失った方、家族がバラバラになり、子供に送迎をお願いできなくなった方、公共交通機関のみでは移動が難しい方など移動に課題を抱えている方が多くいらっしゃいます。
Rera さんは移動困難者をサポートされています。

5. 災害支援チームからのお知らせ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【1．協力員募集】

現　　地

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆　　引き続き以下の内容にて募集いたしますので、ご協力下さい。　☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現在、１日にあたり上限２から３名で募集しております。

現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。

活動日程つきましては下記のようにお願い致します。

期　間：　平日**３日**以上 、

受入日：　**期間を満たす曜日**　　**（土、日、祝日は活動致しません。）**

但し、上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。

※　出発２日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事　務　所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが１～２ヶ月に１回でも構いません。

ご協力お願い致します。

【2．災害支援チーム会議開催のお知らせ】

日程調整中

【3．書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から 2011 年９月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年１月から 2014 年３月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL

http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社

会福祉協会-災害対策本部
/156327867812970

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL
http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be

6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定　２月下旬予定

7. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当　金子

2011 年３月 11 日の東日本大震災発災から数えてまる５年の時が過ぎようとしています。そして、2011 年４月から石巻市において本格的に開始した日本医療社会福祉協会の支援活動は「東日本大震災・災害対策本部」を「東日本大震災・災害支援チーム」が引き継ぎ、今日に至りました。

そして「東日本大震災・災害支援チーム」は 2018 年３月までを支援活動期間と定めました。

私は 2012 年 12 月「東日本大震災・災害対策本部」の事務担当としてこの支援活動に加えていただきました。多くの協力員の皆さんとメールを通じて、電話を通して石巻で支援活動に参加していただくために連絡させていただきました。そして在籍 3 年間を振り返ってみました。2013 年度は仮説住宅から復興公営住宅への転居をめざして、その道のりは 2013 年の登録申請に至りました。現地及び全国での説明会にも協力員が出向き、2013 年度はのべ 690 人が支援しました。そして 2014 年度の抽選会を経て、2015 年 8 月以降は引越・入居に関わる支援期間でした。

2014 年度から石巻現地職員が 3 名常駐したことで、地域との関係が密になり支援活動が広がりをみせ、他団体との交流も増えました。それから直接的な支援活動ではありませんが、石巻現地職員 3 名は、ほぼ月に 1 度サポートチーム・アドバイザーによるスーパーバイズを 2 年間受けてきました。今も被災者のみなさんと関わる時の心構えを学んでいると思います。そして、現地職員と共に「引きこもりの子を持つ親の会」グループワークを続けているサポートチーム・アドバイザーの存在があります。引きこもっていた本人がそのグループワークに参加してきたとのことです。会を継続してきたうれしい結果を得ることになりました。更に、宮城県協会会員の 3 名が月に 1 度のグループワーク「男のあそぼう会」に支援参加してくれることです。現地職員とともに、会への参加者のかたくなな心に寄り添っている様子を知りました。

2015 年度からはもうひとつの「自立困難世帯への自立支援事業」が立ち上げられました。復興公営住宅への入居が果せず、仮設住宅に留まる人々、留まらざるを得ない人々に自身の力で自立した生活基盤を築いてもらうための支援が始まりました。これから 2 年を掛けての自立支援活動が続きます。可能であれば被災され命を繋いでいるすべての人々に、新しい住居から何度目かの再出発を願うばかりです。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 28 年 2 月 8 日 第 5 巻(第9･第10 合併号)
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局